

平成29年度日本教育大学協会研究助成成果等報告書

研究代表者	氏 名	磯 部 征 尊	
	所属・職名	愛知教育大学・准教授	
研究課題名	学級力と各教科学習とを関連付けた学級づくりを普及・発展させるための教育実践研究		研究期間：1年
<p><研究組織（研究分担者）> 保坂 恵（新潟大学教育学部附属長岡中学校・教諭）</p>			
<p><研究成果の概要></p> <p>【研究目的】</p> <p>学級力向上プロジェクトとは、田中（2013, 2014）による新しい学級づくりの手法である。児童生徒が「学級力アンケート」と呼称する調査を実施し、その結果をレーダーチャート形式で可視化して表現する「学級力セルフ・アセスメントシステム」を活用し、学級改善のための主体的な取り組みを行うプロジェクト学習である。</p> <p>本手法は、学級経営を苦手とする教員や、学級経営の基礎・基本を身に付ける必要のある若手教員によるよりよい学級経営の推進に、またいじめ防止教育としての効果が期待されている。本研究は、学級力を普及・発展させるための調査研究を通じて、学級力向上研究会を開催することを目的としている。</p> <p>【主たる成果及び、結果の教育機関、地域社会への還元並びに成果】</p> <p>前期は、学級力普及のために、新潟県や愛知県を中心に、県内公立小・中学校への啓発と共同研究を行った。具体的には、以下の3点である。一つは、学級力を分かりやすく伝えるためのイラスト（以下、漫画）を描いてもらう専門家との打ち合わせを行い、原案を作成した。二つは、専門家との打ち合わせを兼ねて、県外の研究会や小学校への訪問と調査を行った。三つは、学級力を取り入れる教員を募ると共に、本プロジェクトに参画しているメンバーが、学級力に着目した学級経営の実践をおこなった。</p> <p>各小・中学校では、同僚の教員並びに、共同研究者が準備段階から学級力に関わることにより、学級力の手法を身近に感じさせることができたと考える。また、学級力への視野を広げさせることができた。</p> <p>学校外においては、ホームページや制作したポスターを中心に、学級力向上研究会への姿勢を地域社会に伝え、さらには学校への理解と好意的評価につなぐことを行った。また、名古屋市教育センターを初め、各地域の教育センターに学級力を呼びかけ、若手教員の学級経営を高める取り組みを提案した。その際、漫画入り冊子を通じて、誰が読んでも分かりやすく、取り入れることが平易な手法であることを実感させることに努めた。</p>			

【文献】

ベネッセ総合教育研究所（2007）『「読解力」を育てる総合教育力の向上にむけて—学力向上のための基本調査 2006 より』

中央教育審議会初等中等教育分科会（2015）資料1 教育課程企画特別部会 論点整理（案）

蛭谷みさ・田中博之（2015）小学校5年生における学級力向上プロジェクトの開発と評価～教科横断的なカリキュラム編成を通して～,『早稲田大学大学院教職研究科紀要』第7号

新潟大学教育学部附属新潟小学校（2010）『「学級力」で変わる子どもと授業』明治図書

新潟大学教育学部附属新潟小学校（2012）『「学級力」を鍛え、授業で発揮させる』明治図書

白井 裕美子（2002）学習教材としてのマンガのあり方：挿入質問の効果と説明文マンガ化の意義, 日本教育心理学会総会発表論文集（44）, p.356

田中博之編著（2013）『学級力向上プロジェクト』金子書房

田中博之編著（2014）『学級力向上プロジェクト2』金子書房